緑の架け橋

会報第１３号
2009年01月25日
総括号

第７回センター総会を開催〔2008年11月19日〕

～第１０回植林緑化派遣団（2008年10月）報告も行われる～

大地に緑を！日中友好の架け橋に！
６年間の活動を終える。

３ヶ年を終えた中衛ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ（０８・１０・１３）

第７回総会が、昨年の１０月１９日に開催されました。今回の総会を持って、当初の予定通り、一つの区切りをつけることになりました。総会には、村山富市・相談役も参加いただき、これでの活動について振り返り、今後とも変わらぬ意義について再確認致しました。ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

今後の「中国植林緑化活動協力事業」は、事業主催のIFCCで推進していくことになります。IFCCでは、２００８年度から、新たに「中寧ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」を手掛けることになりました。継続している「銀川ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」「石嘴山ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」の案件もありますので、今後も引き続きご協力お願い致します。

緑の架け橋推進センター
中国植林緑化活動協力事業
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 333 辻ビル 405　TEL. 03-3268-4387　FAX. 03-3268-6079
口座：中央労働金庫市ヶ谷支店（普）0858119　郵振：00130-9-425994

※本会報は事業主催（ＩＦＣＣ）の植林ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ特集となります。

樹木と友情は育まれています。

緑の架け橋推進センター
会長　佐藤　晴男

「緑の架け橋推進センター」の６年間の使命を終えるに当たり

第七回総会から（０８・１１・１９）

昨年（２００８年）11 月の第七回総会をもちまして、ご協力いただいてきた皆さんとの約束通り閉じることになりました。２００２年１１月１２日の「緑の架け橋」結成から足かけ７年の活動となりました。

私たちは、ボランティア活動開始に当たり次のように目的を設定してきました。「中国が進める植林緑化活動に対する協力事業と、それを通じ日本、中国の両国民の友好と平和に寄与」し、「大地に緑を、日中友好の架け橋に」と、呼びかけてきました。

この間、「紅寺堡ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」「中衛ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」の他、並行して「平羅県ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」も終了、「銀川ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」「石嘴山ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」にも着手してきました。

「緑の架け橋」の６年間の使命を終えるに当たり、植林緑化活動を通して、この当初の目的は達成できたのではないかと思います。

しかし「緑の架け橋」が、活動開始にあたり訴えてきました事態は、今なお些かも減じてはおりません。地球規模での環境破壊は今なお進行しています。温暖化現象や酸性雨等は広範囲で植物生態に異変をもたらし、干ばつ、局地的な大洪水、台風・竜巻などを発生させ、人間をはじめ動植物の生態に大きな影響を与えています。

荒廃した沙漠に植林（緑化）を行うことにより、黄砂の飛散や沙漠化をくいとめ、地域の生態系を改善することは、野菜・穀物・果樹等の栽培を可能にし、食糧確保と生活安定につながっていきます。また「緑の架け橋」という小さなボランティアが寧夏地域の人たちや全青連の若者とともに、広大な沙漠の中で汗をかきながら大きな夢に向かい共同作業してきたことは、単に「生態緑化」にとどまらず、国境・歴史を超え未来に向かって、平和と友好を築き上げる一歩になったのではないかと思っています。

２００２年１１月１３日から実施した「紅寺堡」の事前調査は寒風と沙塵が舞う現地での調査となり、先行きの厳しさを思い知る旅でした。スタート翌年は「SARS」禍に見舞われ植林派遣団が延期となりましたが、果敢な調査団が現地に出かけました。紅寺堡ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの終了時には「テレビ大分」のドキュメンタリー撮影隊が同行しました。昨年は「四川大地震被災者への支援金」も呼びかけ届けました。

６年間を経た今、現地での植林緑化活動に参加いただいか方々のみならず、会費での協力をいただいた方々の心に「緑の架け橋」が芽生えていただけていたら幸いです。

今後、植林緑化活動ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄは継続案件もあり、ＩＦＣＣ国際友好文化センターが引き継いでいきますので、芽生えた「緑の架け橋」が育まれますよう、関係各位に引き続きご協力をお願いする次第です。
（2009 年１月）

【活動実績】

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名	事業実施期間	植林面積	遂行状況
寧夏紅寺堡生態緑化ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ	2002 年度～2004 年度	330 ヘクタール	完了
寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業	2004 年度～2006 年度	290 ヘクタール	完了
日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ	2005 年度～2007 年度	300 ヘクタール	完了
日中青年銀川生態緑化林事業	2007 年度～2009 年度	180 ヘクタール	1 年目 45 ヘクタール終了
日中青年石嘴山生態緑化林事業	2007 年度～2009 年度	250 ヘクタール	1 年目 50 ヘクタール終了
寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業	2009 年度～2011 年度	300 ヘクタール	1 年目準備中

緑の架け橋推進ｾﾝﾀｰ第７回総会を開催

緑の架け橋推進ｾﾝﾀｰ「閉会」、IFCCへ継続・付託へ

緑の架け橋推進ｾﾝﾀｰは、11 月 19 日に東京において第 7 回総会を開催。08 年度の活動経過・決算を確認すると共に、当初の活動呼びかけ趣旨から 2007 年度を一つの区切りとし、緑の架け橋推進ｾﾝﾀｰ「閉会」を決定しました。しかしながら、継続中のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄや社会的意義を考慮し、活動に関する一切（継続ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ、資産・銀行口座・郵便振替口座、「緑の架け橋」の名称使用）を事業主催のＩＦＣＣ国際友好文化センターに付託あるいは委譲することを確認しました。

【2007 年度活動報告】

2007 年度（2007 年 11 月～008 年 10 月）は、「日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」の 3 年目の年となり、緑の架け橋推進ｾﾝﾀｰの役割を終える年となりました。「日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」は、緑の架け橋推進ｾﾝﾀｰが開始当時手がけた「紅寺堡ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」を継続したもので、1 年目 100 ヘクタール、333000 本、2 年目 100 ヘクタール、394100 本、3 年目 100 ヘクタール、338300 本の植林を終えました。

また 2007 年度は、事業主体の IFCC 国際友好文化センターが、カウンターパートの中華全国青年連合の要請を受け、「日中青年石嘴山生態緑化林事業（1 年目 50 ヘクタール、84000 本）」「日中青年銀川生態緑化林事業（1 年目 45 ヘクタール、133000 本）」を開始し、この植林緑化活動にも参加してきました。

2008 年 3 月に第 9 回植林緑化派遣団、同年 10 月に第 10 回植林緑化派遣団を取組み、会報は 2008 年 1 月に 11 号、同年 7 月に 12 号を発行。

こうした取り組みの過程で、四川大地震被害者への救援カンパを呼び掛け、540,900 円をカウンターパートを通じ被災者へ届けてきました。

【2007 年度収支報告】（予算 07 年 11 月 14 日～08 年 11 月 13 日、実績 07 年 11 月 14 日～08 年 11 月 16 日）

収　入

費目	予算（円）	実績（円）	摘要
繰越金			
会　費	600,000	356,000	118 口
植林協力金	400,000	100,000	9 回 7 口、10 回 3 口
賛助金	1,200,000	1,200,000	
助成金	1,083,000	519,000	
会場費	200,000	72,000	総会、壮行会
借入金	2,433,000	0	
雑収入	0	0	
合　計	5,916,000	2,247,000	

支　出

費目	予算（円）	実績（円）	摘要
事務所間借代	240,000	240,000	
通信・送料	140,000	139,415	
事務局費	400,000	265,225	
事業費	100,000	32,371	
印刷代	300,000	240,069	
備品・消耗品	5,000	0	
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ自己資金	3,216,000	1,200,000	一部未払い
返済金	313,142	63,142	
未払金	1,201,000	0	
予備費	858	3,230	郵便振替手数料
繰越金		63,548	
合　計	5,916,000	2,247,000	

【2007 年度貸借表】単位・円

貸　方				借　方		借方の説明
通帳	0	郵便振替	0	預り金	250,000	立ち上げ資金
現金	63,548	助成金	564,000	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ自己資金	2,016,000	中衛　656,000、石嘴山　619,000 銀川　741,000
			627,548 円	未払い金	0	
				借入金	63,142	
						2,266,000 円

貸方－借方＝△1,638,452 円

【NOTE】資産について、以下の処理を確認しました。

①貸借関係における負債については、「借り方」ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ自己資金は中国側に債務放棄処理を要請する。

②結果、残金が３７７、７４８円となるが、これをもって、「まとめ」のための本会報印刷・送料にあてる。

③「借り方」の立ち上げ預り金の返済は、残金の状態により、一部債務放棄を要請し、資産を０円とする。

【今後の IFCC による活動計画】

Ⅰ．植林緑化派遣団の実施

※植林派遣団は、「緑の架け橋」の取り組みを継続した形にする。

第１１回　２００９年4月１０日（金）～１４日（火）　参加目標・最少２０人
寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業　開工式
日中青年石嘴山生態緑化林事業　２年目
日中青年銀川生態緑化林事業　２年目

第１２回　２００８年１０月中旬予定　参加目標・最少２０人
石嘴山、銀川、中寧における捕植活動

Ⅱ．会報の発行

※会報は、「緑の架け橋」の名称を継続する。

Ⅲ．協賛呼びかけ

会員登録は行わず、協賛金を呼びかけ、登録をしていく。協賛金の目安は個人一口×３０００円、団体一口×３０，０００円ですすめる。

Ⅳ．植林協力金の要請

植林活動参加者１人の植林協力金を１０，０００円として要請する。

【IFCC が進める 2008 年度　ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの事業計画】（2008 年 11 月～2009 年 10 月）

区分	寧夏中寧県日中青年石嘴山生態緑化モデル林事業		日中青年石嘴山生態緑化林事業		日中青年銀川生態緑化林事業		摘　要
	事業経費(千円)	内容	事業経費(千円)	内容	事業経費(千円)	内容	
植林	13,081	1230000 本(100ha)	5,080	97000 本(66ha)	9,951	133,000 本(45ha)	苗木購入、植え付けなど
保育	2,442	潅水・農薬散布・施肥等	2,813	除草・施肥・農薬散布等	2,341	除草・施肥・農薬散布等	潅水、施肥、農薬散布、獣害防除
機材調達	775	農薬散布器、ﾎｰｽ、肥料等	2,614	消火器、肥料等	877	消火器、肥料等	造林用作業具、農薬散布機等
基盤整備	2,635	灌漑設備等	3,658	灌漑設備等	3,782	灌漑設備等	灌漑水路整備
事務経費	850	通信・印刷等	650	通信・印刷等	650	通信・印刷等	
技術者派遣	700	派遣旅費等	700	派遣旅費等	700	派遣旅費等	
その他	310	技術指導等	3,959	技術指導等	1,238	測量計画設計費	助成経費以外の経費
合計	20,793(内、助成 9,900)		19,452(内、助成 14,800)		19,539(内、助成 14,800)		

第 10 回植林緑化派遣団（２００８年10月11日～14日）活動報告

報告：ＩＦＣＣ　内海　野花

第 10 回派遣団は、3 名にて実施。本年度から始まった銀川市・石嘴山市のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ視察および秋季補植、中衛市（最終年度）の視察および秋季補植、来年度からスタートする中寧県の事業地の視察をおこなった。

銀川市ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ地

10 月 10 日（金）事前学習会

佐藤会長、石川事務局長よりこれまでのﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ（銀川市生態緑化林事業、日中青年石嘴山生態緑化林事業、日中青年寧夏中衛生態緑化林事業）の経過説明を受ける。

10 月 11 日（土）成田出発、北京を経由し銀川へ

成田からおよそ 3 時間のフライトで、北京首都国際空港に到着。昨年 11 月に開港した第 3 ターミナルは非常に巨大で近代的な空港。出口をでて、スルーガイドの劉さんと合流。オリンピック前は、北京の大気汚染が騒がれていたが、本日は秋晴れで気持ちのよい天気。そのまま北京市内見学の予定であったが、中青連より昼食の招待を受け、湯
本洲副秘書長と洪桂梅副部長と会食後、天安門広場と故宮を見学し空港へ戻る。空港にて中青連副部長洪桂梅さんと再度合流し一路銀川へ。北京からおよそ 2 時間のフライトで銀川河東空港に到着。6 月に新しくなったばかりの空港は、地方空港とは思えない立派さである。空港では、寧夏自治区青年連合会の代表者たちに迎えていただき、その後簡単な歓迎食事会が開かれた。

石嘴山市ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ地

10 月 12 日（日）銀川市・石嘴山市の視察および補植作業

午前中は、今春より第一期のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄが始まった銀川市の生育状況の視察をし、銀川市青年連合の団員十数名とともにヒバの補植を行う。ここではそのほか、アンズ・寧香（チョウコウ）などが植林されている。

この銀川市のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ地には、鴨子蕩ダム（黄河から水を引いてきた人口湖）があるため、ほかのﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ地にはない灌水パイプが張り巡らされ、水務部門により水の供給が管理されている。しかしながら一部枯れ木も目立った。その後、ダム管理施設と黄河そばの灌漑施設を見学。毎日 10 万トンの水が周辺に供給されており、鴨子蕩ダムは自治区の経済成長を担う重要なダムであるとの説明を受ける。午後からは、同じく春から始まった石嘴山市大武口区の保育状況を視察し、地元の小学生とナツメを補植。ここの地質は、海岸地帯の砂のようで木々が根付くのは大変そうである。また、昨年終了した石嘴山市平羅県のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの成果がパネル展示されており、それによると 3 年間に 131 万株の植林がおこなわれ 85%以上が根付いたとのこと。ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄは 3 年で終了となったが、その後の行方が気になるところである。

午前、午後の視察を終え、本日は寧夏回族自治区青年連合会曹主席との夕食会のため呉忠市に宿泊。

夕食会には自治区の 5 地級市の青年連合主席が出席し、賑やかなものとなった。今年、自治区成立 50 周年を迎えた寧夏の発展について、佐藤団長は「寧夏（回族自治区）全体が変化している。これは政府のみならず地元の人々の力・若いエネルギーの力である。」と述べられた。今回出席した 5 人の青年連合主席もみな若い人たちで、植林事業の成功も彼らの新しい力によるところが大きいのではないだろうか。

中衛市第一期ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ地

10 月 13 日（月）中衛市視察および補植と新規ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ地視察

昨日のメンバーと朝食会の後、中衛市に向け出発。中衛市のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ地では、1 期から 3 期まですべての事業地を視察。第 1 期目（2006 年 4 月スタート）の事業地ではポプラ、アカシアが主に防護林として植えられているが、すでに人の背丈以上に成育し根付いていた。担当者から、「沙漠状態だった土地が、植林によって草が生え、砂が土に変わった。生態環境が変化している」との説明を受ける。2 年前に砂漠状態だった写真を見たが、今と同じ場所とはとても信じられない。第 2 期目（2007 年 4 月スタート）の事業地では経済林としてナツメが植えられ、同じくここも土が変わったという。植林をして

土が変わったことにより、この地に人がやってきたそうである。現在、この事業地周辺には養鶏場が立てられており、来年度は 6000 万元の収益を見込んでいるとのこと。その後第 3 期目の事業地にて地元の小学生とともに補植を行う。

午後は、中衛市での昼食会の後、来年度から始まる新規事業地（中寧県）の視察をおこなった。事業地ではすでに試験的な植林がおこなわれていた。この新規事業地では、植林とともに移民政策を行うとのこと。6000 人から 7000 人の人々が住む「幸せの村」を建設、家とともに植林した経済林（ナツメ・りんご・クコ）を販売（5000 元）、住民は経済林の植林活動を行い、収穫した果実によって収入を得ることができる。見渡す限り一面の赤茶けた大地を、数年の後に果物が実る緑豊かな土地にする。なんとも夢のある企画であるが、午前中に視察した事業地の成功を見れば、この計画も必ずや成功するに違いない。中青連洪副部長は、この事業地の経過をビデオ撮影しようと提案。これは非常に興味深いﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄになるだろう。

夕刻、銀川河東空港より北京へ戻り、北京宿泊。

新規・中寧県ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ地

10 月 14 日（火）日本へ帰国

午前、北京首都国際空港より成田空港へ。成田着後解散。

10 回植林緑化派遣団参加者（3 名）

氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
佐藤　晴男	当ｾﾝﾀｰ会長	細野　右文	自治労・長野	内海　野花	ＩＦＣＣ

壮大な緑化事業が始まった６年間。引き続く協働を。

事務局長　石川昇

第七回総会議案④として提案された【6年間の活動を振り返って】に基づき、これまでの活動について報告します。

地球的規模で環境悪化が進む中で、１９９８年の中国長江流域などでの大洪水発生を契機に、中国への緑化支援事業として日中政府間の取り決めを受けて、NGO 組織として発足したのが「緑の架け橋推進ｾﾝﾀｰ」でした。発足から６年がたち、今総会をもって一定の区切りをつけることとなりました。この間、趣旨に賛同し、ご協力をいただいた会員および関係団体に心からの感謝を申し上げるとともに、活動６年のまとめとします。

やっと実現した第１回植林緑化派遣団（０４・４・１８、紅寺堡で）

１、各ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄについて

（１）寧夏紅寺堡の生態緑化ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ

３年間で３３０ヘクタール、595,100 本を植栽。

03－05 年の３ヶ年計画完了。

（２）平羅県の生態緑化林事業

３年間で 290 ヘクタール、1,667,800１本を植栽。05－07 の３ヶ年の三カ年計画で完了。

（３）中衛市の生態緑化モデル事業

３年間で 300 ヘクタール、1,065,400 本を植栽。06－08 年の３ヶ年計画で完了。

いずれのﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄも寧夏回族自治区政府、カウンターパートである中華全国青年連合会、市政府、党関係者や地域住民の熱意と積極的な参加のもと、植栽は成功し、成林への期待が高まっています。一方で、紅寺堡では当初の植栽木であるヤナギから、ヒノキに代えられたという経緯もあり、今後の成長について慎重に見届けていく必要があります。このほかに本年から三カ年計画で「銀川緑化林事業」「石嘴山緑化林事業」の二つのﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄが始まり、第９回派遣団が植林作業に従事しました。

２、派遣団について

この間の派遣団は、事前調査団２回、実際の植林派遣団は延べ１０回、１３６人の参加となりました。第１回の派遣団は、中国国内のサーズの影響でとり止めたことから０４年４月１５日となりました。総勢は最高の３６人でした。その後の参加は諸種の事情も重なり、８～９回の派遣団は一桁台となりました。派遣団は植林作業に従事することを主体にしつつ、日中両政府が心血を注いで成功させたモデル林などを視察し、緑化への自信を深めました。

新清报　　宁夏新闻　★★★★★

第3版　2006年4月17日

同植友谊树苗　保护地球家园

中日青年中卫市示范林项目启动

本报讯（记者 陈秀梅 崔万明）4月16日，由自治区团委组织实施的“保护母亲河行动——日中青年中卫市生态绿化示范林”项目在宣和镇启动。自治区副主席刘仲、日本“绿色之桥”代表团13名成员，与该市1000多名青年志愿者一起参加了植树活动。

中卫市是黄河流经宁夏的入口，此地植被覆盖率低，水土流失严重。“保护母亲河行动——日中青年中卫市生态绿化示范林”项目由日本国际友好文化中心、日本绿色之桥推进中心投资220万元援建。项目区位于宣和镇沙漠地带，规划面积300公顷，计划3年分批实施。工程完工后，将有效改善周边环境，减少黄沙吹入黄河，并对促进中日青年交流，增进中日青年友谊具有深远意义。

自2002年起，全国青联与日本国际友好文化中心联合申请“日中绿化交流基金”的资助，在宁夏红寺堡地区及石嘴山市先后建了两个“保护母亲河行动——中日青年生态绿化示范林”工程，几年来，项目已取得了显著的生态效益和经济效益。

第５回派遣団の植林活動現地報道
（０６・４・１７付寧夏新聞より）

事前調査団は、実際に植林する予定地を視察するもので、０２年１１月に行われた呉忠市紅寺堡の調査には７人が参加しました。

成林に成功した霊武市のモデル林の見学も行われ、調査の参考になりました。この様子は「寧夏紅寺堡生態緑化ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ調査報告書」としてまとめら

れました。

３、「緑の架け橋友の会」について

緑化派遣団に参加した仲間から、自分が植栽した木の成長を見るために、旅行費用の積み立てをしようとの提案を受けて、０５～０６年の二ヶ年で積み立てることを目標に取り組みました。申し込みがあったのは１２人で、実際の積立者は１０人でした。このうち６人が、０７年９月の第８回派遣団に参加し、実際に植栽した植林地を訪れ、非常に感慨深いものとなりました。

初めて遭遇した沙嵐の中での植林活動（０７・４・１４、中衛で）

４、会報について

会報については、推進ｾﾝﾀｰの発足を受けて０３年１月の創刊号から派遣団の様子や定期総会の報告、派遣団参加者の募集などを内容とするもので今日まで１２号を数えています。また、第２回派遣団と第４回派遣団については別冊で報告書を発行しました。事務局体制が必ずしも十分でない中での発行は大変でしたが、会員にとっては貴重な資料になったものと思われます。

５、会員について

各年度により差異がありますが、これまで会員費の協力をいただいた方々は５７個人、３５団体となっています。

「友の会」の旅費積立で再度現地を訪問（０７・９・２２、平羅県で）

６、「まとめ」について

緑化派遣団の目標は３点に集約されます。その第一は、実際の植林を通じて地球規模での環境緑化、砂漠化防止に貢献することです。中国政府が国を挙げて進めている緑化政策について、NGO の立場からその機運を高めようとするものです。その第二は、植林を通じ地域住民との交流をはかり、平和、友好の絆を強めようとするものです。まさに「緑と平和の使節団」の役割を果たそうとするものです。第三には、悠久 5000 年の歴史を有し、一衣帯水の国でもある中国文化に触れることでありました。

第一の目的は、今後成林を見届ける必要がありますが、関係者の努力によって、植栽木が根付き必要な保育・管理もなされています。１０回にわたる派遣の度に多くの子供たち、地域住民が一緒になって植林に参加し、緑化への機運の醸成・高揚に大きく貢献いたしました。

第二の目的は、延べ１２回の派遣を通じ、自治政府、市政府、全青連、党関係者をはじめ多くの子供たち、地域住民と交流を果たし、深い絆と信頼を得てきたと思います。「緑と平和の使節団」の役割は十分果たしたと考えます。

第三の目的は、派遣団毎に日程が一様ではありませんでしたが、現地である寧夏回族自治区を始め北京、西安など訪れ歴史の奥深い文化の一端に触れることができました。

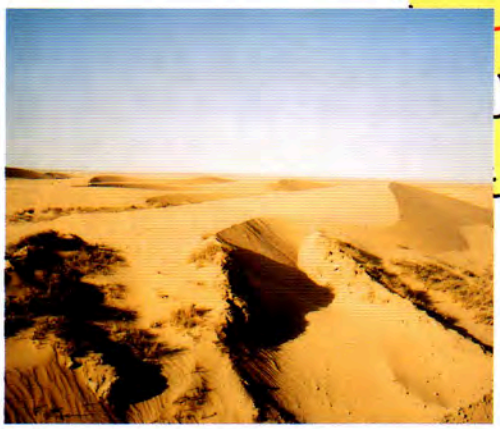
以上、見たように２回の事前調査団、１０回の緑化派遣団の取り組みは、成功したと考えます。もとより緑化は国家 100 年の大計として、今後長年月にわたり保育・管理を続けなければなりません。熱意ある技術者の育成、財政的な支援そして地域住民はじめ関係団体の支援、協力が不可欠です。壮大な緑化事業は始まったばかりですが、引き続く日本との協働が必要です。

最後に日中緑化協力基金にもとづくﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ総体について、「助成事業に対する要請の高まり、26,000 ヘクタールの植林による植生回復、水土流出防止、砂漠化防止などに効果、民間ベースの植林事業を牽引、日中交流の活性化に貢献」などを評価したうえで、０７年１２月中国訪問中の福田総理と温家宝国務院総理との会談で「植林と持続可能な森林経営を含む林業分野における両国の協力をさらに強化する」旨の共同コミュニケが公表されたことを報告し、まとめとします。

「中国植林緑化活動協力事業寧夏回族自治区での協力事業実施図」

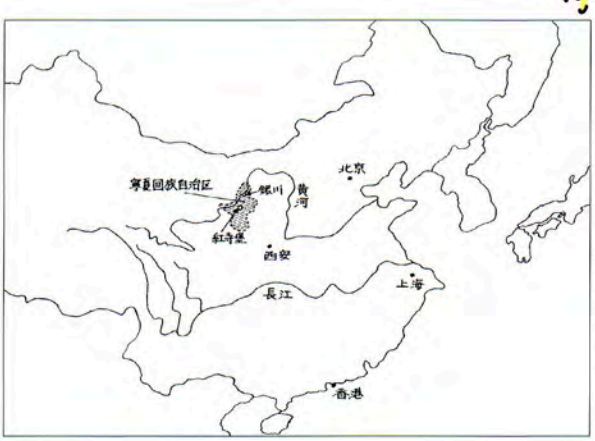
中衛ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ原景（０５・９・２４）

平羅県ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ終了時
（０７・９・２２）



紅寺堡ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ原景（０２・１１・１５）

紅寺堡ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ５年後（０７・９・２３）



継続・日中青年石嘴山生態緑化林事業
惠农区
石嘴山市
寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業
平罗区
贺兰
银川市
永宁
灵武市
青铜峡市
吴忠市
継続・日中青年銀川生態緑化林事業
継続・寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業
日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト
中卫市
中卫区
寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト
红寺堡区
同心
海原
固原市
西吉
彭阳
隆德
泾源

高速公路
河流